

社会増減の均衡に向けた取組みについて

現状

大学・短大進学時に多く若者が県外流出

- ・全ての進学者（6,982人）のうち、県内進学が約4割（2,666人）に留まる
- ・全ての進学者に対して、県内大学等で受け入れ可能な定員が不足している（約2,650人不足）

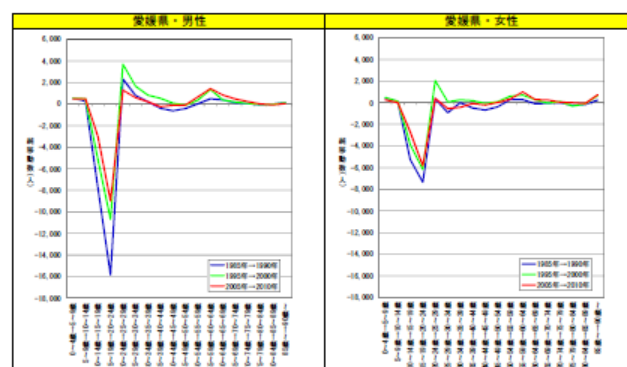
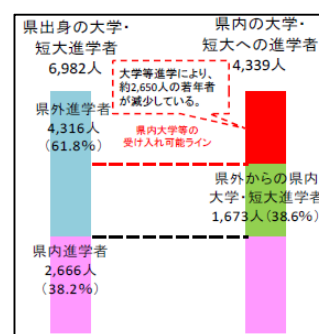
若者の就職時の転入が少数に留まる

- ・進学時に転出した若者の県内企業への就職はあるが、進学時の転出者数に比べて少数となる傾向が見られる

退職に伴う若干のUターン

- ・男女ともに、50～60歳代の退職年齢で若干の転入超過となっている

約3,000人の転出超過（平成25年）



社会増減の均衡に向けたポイント

- 県内の大学等に進学する若者の増加
- 県外の大学等に進学した若者の県内就職の増加
- 県外人材の流入の増加

具体的な取組みの考え方

県内大学等への進学促進

- 小・中学校、高校時代から地元で愛着を抱かせる教育の実施
- 地域との連携による県内大学等の魅力向上

新卒者の県内就職の促進

- 小・中学校、高校時代から地元で愛着を抱かせる教育の実施
- 地元産業界等と連携した人材の育成
- 新規創業や企業誘致などによる雇用の場の確保
- 雇用の質の向上促進による県内企業の就職先としての魅力向上
- 県外の大学生等に対する県内企業の情報発信とマッチング

移住者の呼び込みの推進

- 各年代層に応じた移住促進策の強化（特に本県出身者をターゲットに）
- 愛媛の認知度を向上させるための情報発信の強化

これらをベンチマークとして、数値化した目標（KPI）を設定